

奈良県における取組

■ 施業を集約化し、作業道等の基盤整備と併せて機械化を進め、低コストで安定的な木材生産を図る

1 基幹となる林道の整備

- ①広域的な林道について、県が市町村に替わって開設
 - ：県営林道開設事業
要望50,000千円（内示41,000千円）、県44,900千円
- ②市町村等が行う林道開設事業を補助
 - ：補助林道開設事業
要望83,595千円（内示64,797千円）、県14,673千円
- ③市町村等が行う林道改良事業を補助
 - ：林道改良事業 等
要望168,206千円（内示124,324千円）、県21,888千円
- ④国庫補助対象外の林道整備事業補助
 - ：県単独林道事業 県54,330千円

2 奈良型作業道による木材生産の拡大

- ①まとまった森林施業区域において奈良県独自の作業道「奈良型作業道」の重点整備
 - ：奈良型作業道重点開設事業
国 要望105,228千円（内示73,914千円）、県73,424千円

3 林業機械導入による木材生産の拡大

- ①林業機械導入支援
 - ：林業機械導入支援事業 国要望：16,250千円（内示0円）
- ②林業機械レンタル補助
 - ：林業機械レンタル事業 県：9,000千円

③林業機械の導入に当たっての試用経費の補助

：作業システム実践支援事業 県：4,000千円

④急峻な地形では、架線集材施設の設置に係る経費を助成

：架線集材施設設置支援事業 県：2,200千円

■ 参考 今後の奈良県の取り組み

・スイスのフォレスターからの助言により、森林環境管理に資する持続可能な森林経営を目指す。そのためには、①路網整備、②機械化、③人材育成等により森林の生産性を高める必要がある。

国にお願いすること

・林業を成長産業化するため、林業の生産基盤である林道や作業道などの路網の整備、高性能林業機械の導入などが急務である。

・このため、これらの事業について、十分かつ安定的な財源を確保することを要望する。



林道高野辻阪本線(五條市大塔町殿野)



グラブ付トラックによる木材の積込



自走式による最新の木材搬出機械

国費財源

- ・農山漁村地域整備交付金 1-①、②、③
- ・地方創生道整備推進交付金 1-②、③
- ・森林環境保全直接支援事業 2-①
- ・森林・林業再生基盤づくり交付金 3-①